



横浜市立大学 ボランティア支援室 報告書 2025



令和7年第51回金沢まつり花火大会



横浜マラソン 2025



2025 ワールドトライアスロン・パラトライアスロン
シリーズ横浜大会



令和7年度第1回ボラツアー「野島海岸清掃ボラツアー」
ボランティア支援室学生スタッフVolunch



第9回アフリカ開発会議 (TICAD9)



医療教育訪問授業 / 医学部 YDC



寺子屋塾 西大道



第13回アジア・スマートシティ会議 2025



ボランティア支援室 学生スタッフVolunch



2025 横浜八景島トライアスロン
フェスティバル



令和7年度3Step ボランティア実践講座



令和7年度第3回 YCU フードシェア

新たな課題認識と、学生の成長を見守る喜び

■登録・派遣・依頼数の考察

2025年度のボランティア登録学生数は2024年度とほぼ同じ374名(P12参照、2026年3月15日現在)、派遣数は昨年より9名増えて715名となり、2024年度、2025年度と登録数、派遣数とも落ち着いてきた様子が見て取れます。

一方相談件数は416件にとどまり、2024年度の513件から大幅に減りました。『ボランティアスタートアップ補助金』の申請状況も、2025年度は継続3年目の「Clover」のみ。学生団体や学生個人からの「新たに地域貢献活動を始めたい」という相談はほとんどありませんでした。学生の自主的な地域貢献活動をサポートしているボランティア支援室としては、この結果をしっかりと受けとめ、学生の興味・関心がどこに向かっているかを検証する必要があります。2026年度は、改めてボランティア支援室の存在をもっとアピールしつつ、学生を呼び込めるような工夫をしていく必要があると考えています。

■「食の支援」から「YCUフードシェア」への大きな転換

ボランティア支援室では2021年度から2024年度まで、生活が厳しい学生向けに「食の支援」を継続的に実施してきました。しかし新型コロナウイルス感染症の拡大時、急激に減った学生のアルバイト先が通常通りに回復したことや、昨今の急激な物価高がすべての学生に影響を与えていることなどを鑑みて、2025年度からはフードロス削減活動「YCUフードシェア」と目的を変えて実施することになりました。

食の支援では「配布日時で本学の在学学生であること」「ご家族等の支援が十分に受けられない状態（自宅外通学やひとり親世帯など）であること（自宅通学でも可）」「物価高のため生活費を切り詰めている状態であること」という3つの条件に当てはまる学生に事前登録してもらったうえで配布していましたが、「YCUフードシェア」では事前登録はなくして、全学生を対象にしています。

「食の支援」でご協力いただいていた団体の中には、食や生活への不安を解決し生活困難を支えあうことをミッションとして活動されているところもあったので、本学の目的変更によって団体の主旨との相違が出てしまいます。そのため団体の皆さんには、目的を「支援」から「フードロスの削減」へ変更するという大きな転換についてご理解いただくために、丁寧な説明が必要でした。

結果としては、「YCUフードシェア」は多くの学生に参加してもらうことができ、フードロスの現状を知ってもらう良い機会になっています。



■Volunch との連携と伴走支援

ボランティア支援室ではボランティア団体のサポートを行っています。学生スタッフ Volunch との連携もその一つです。2015年の開室以来、常に私たち職員と最も近い関係にある学生として一緒に活動してきました。しかし新型コロナウイルス感染症の広がりに影響された時期は少し距離ができてしまい、密な連携が難しかったこともありました。そこで2025年度は、「Volunch マニュアル」を改編し、Volunchとして大切にしたいことを伝えています。メンバー同士やボランティア支援室職員はもちろん、一般学生や地域団体とのコミュニケーションを大切にすること。そして思いやりの気持ちを忘れず、誰も取り残さないように常に全体を俯瞰して互いに情報共有をすることなどを明記しています。

このように学生団体としての運営基盤の立て直しを課題とした取組のなかで、4月の新歓活動では、新入生の入会手続きを明文化して、上級生からの連絡漏れがないように状況を見守りました。一方で幹部の引継ぎについても新幹部となる2年生との話し合いの時間をもちました。3名の2年生は、全員幹部として活動してくれることとなり、それぞれ「食の支援・資源リサイクルグループ」「国際交流・地域交流グループ」「子ども食堂グループ」のリーダーとなって1年生を引っ張ってくれました。結果として、3グループとも「ボラツアー (P.11参照)」を実施することができ、メンバー全員が学びを得ることができたと思います。以下は年度末に、幹部の一人がメンバー全体へのチャットに書いてくれた感想です。

(コーディネーター 柳本 薫)

■2025年度 Volunch 活動を振り返って

Volunch は2025年度、目標であった各グループ1回のボラツアーの実施を達成し、西大道町内会さんの寺子屋塾・お餅つき大会など、たくさん活動を行うことができました。Volunchとしては目標を達成できたことを含めて、とても充実した一年だったと思います。グループの企画も今年度初めて挑戦したことが多くありました。うまくいったことも、そうでなかったこともあったと思いますが、一人ひとりが一生懸命活動してきたからこそ様々なことに気づかされたと思います。

改めて振り返ると、コロナ禍から低迷していた活動をようやくゆっくりと再始動させられたことは、とても大きな一歩でした。1年生から Volunch に所属している私からすると今年度の活動は大変なことも沢山ありましたが、本当に充実したやりがいがあるものでした。「2025年度は絶対に自分が Volunch を変えていくんだ」と誓って、自分なりに努力してきました。今となってはこれまで頑張ってきたこと、ここまで Volunch の活動を復活させることができ良かったと心から思っています。

そしてこれら全て自分の力だけで成し得ることはできなかったと実感しています。皆様の支えがあったからこそ、Volunch 全体として成長することができました。4月から新入生を迎えて、新たなメンバーで活動が始まります! これからも充実した活動になるように、全員で Volunch を作り上げていきましょう!

(2年 弘田桃子)

2025年度も、多くのイベントに学生ボランティアが参加しました。
ボランティア同士仲良くなって、交流が生まれるのもイベント・ボランティアの魅力です。

横浜フランス映画祭2025



鮮やかな青空の下、
日仏の華やかなゲストと
上映をサポート

32回目となった2025年のフランス映画祭は、本イベントは横浜みなとみらいで、B to Bマーケットは新宿の東急歌舞伎町タワーで開催されました。アンパサダーを二階堂ふみさんが務め、イベントに花を添えました。本学からは、31名の学生がボランティアとして参加し、お天気にも恵まれて華やかな雰囲気の中、充実した活動ができました。

3月20日(木・祝)、ベイホテル東急担当の学生は、ゲストが横浜市役所アトリウムに向かう公式車両に遅れずに乗車できるよう、1階のエントランスで迷っている方に声掛けをして、ご案内しました。指定の時間になっても現れない方もいて冷や冷やしましたが、どの車両もほぼ定時にホテルを出発することができました。

一方横浜市役所アトリウムではレッドカーペットの準備が行われ、担当の学生は会場設置などを行いました。クリスタル・ケイさんのパフォーマンスの後、ゲストの方々が次々と公式車両に乗って来場し、最後に二階堂ふみさんが到着す



ると、その後全員が壇上に上がって開幕宣言とフォトセッションが行われました。この間、学生ボランティアは指定の場所に立って、会場に詰めかけた多くの一般観客の方に声掛け・誘導・案内などを行いました。

レッドカーペットの終了後は桜木町駅前にあるコレットマーレ6階のブルク13で、舞台挨拶やオープニング上映があり、学生ボランティアは観客の案内・誘導やチラシの配布、また上映作品の影ナレーション(影ナレ)を担いました。影ナレ担当の学生は、自ら英語を交えて書いた原稿を読むという緊張感あふれる体験ができました。

期間中ブルク13では計9作品が上映され、担当の学生はさまざまな映画と関係者と触れ合うことができ、映画好きにはたまらない活動に

なったようです。

3月22日(土)と23日(日)には、象の鼻テラスで「トークセッション」が開催され、学生ボランティアは会場準備、来場者の受付と誘導、マイクランナーなどを担当しました。また、通常上映が終了した後の2日間は、新宿・歌舞伎町タワーで開催された商談の場、B to Bマーケットに各日4名の学生が参加し、受付・問い合わせ対応などを行いました。

- 実施日/3月20日(木・祝)～25日(火)
- 場所/横浜ベイホテル東急、横浜市役所アトリウム、横浜ブルク13、東急歌舞伎町タワー17階 JAM17 SPAC EAST
- ボランティア学生数/31名



★「横浜フランス映画祭2025」
レポートはこちらから。

令和7年 第51回金沢まつり花火大会



真夏の夜、金沢区の空を彩った
花火大会での募金活動

「第51回金沢まつり花火大会」は、8月30日(土)に海の公園で開催されました。3,500発の花火が打ち上げられ、約25万5千人の人々が真夏の夜を楽しみました。本学からは20名の学生ボラン

ティアと、金沢区役所のインターンシップに参加していた3名が募金活動を行いました。

真夏の蒸し暑い夕方に開催されるこの花火大会は、多くの露店の間を色とりどりの浴衣を着た人々が行き交う金沢区の風物詩です。ボランティアの学生は17時の集合後お弁当で腹ごしらえをし、6区域に移動して募金活動を行いました。地域のボランティアの方や区役所の職員さんなどとチームになっての活動で、前半は18時から19時、19時から花火を鑑賞して、また20時から終了時刻まで従事しました。花火が始まるといった募金箱を引き上げ、ボランティアも約1時間花火を楽しむことができるため、この活動は毎年学生たちにとっても人気です。

集まったお金は翌年の開催費用に充てられるため、趣旨を呼びかけることも大切です。20時からの後半戦は、花火を見て感動の余韻に浸り募金に賛同してくれる方も多く、呼びかけにも

より熱が入りました。重くなっていく募金箱とともに、学生たちのやりがいや達成感も、より大きく感じられる活動だったのではないのでしょうか。

- 実施日/8月30日(土)
- 場所/横浜市金沢区海の公園
- ボランティア学生/20名、
金沢区役所インターン生/3名



★「第51回金沢まつり花火大会」
レポートはこちらから。



2025 ワールドトライアスロン・ パラトライアスロンシリーズ 横浜大会

選手との触れ合いと
ボランティア同士の交流。
学内では得られない体験を！

5月17日(土)18日(日)の2日間、山下公園を中心に「2025 ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」が開催され、本学から延べ4名の学生ボランティアが参加しました。

初日に活動した学生は主に「エリート女子」のレース担当として、大雨に見舞われコンディションが悪い中戦いを終えて戻ってきた選手のサポートを行いました。この活動は英語を使う機会も多いため本学では毎年人気で、ボランティアの学生たちはフィニッシュした選手に向けて、計測チップを外し(女子選手なので女子が対応)、ドリンクやタオルを渡すなど英語を使った労いのことば掛けをして、選手の皆さんから「ありがとう」と返してもらっていました。



現場にはキッズプログラムで参加した市内の小学生ボランティアもいて、我先にという元気で周囲を笑顔にしていたのですが、英語の対応は大学生が担いました。学生ボランティアが胸につけた「English」の文字を見て、選手だけでなくメディアや計測員の方が話しかけてくることもあり、そんな場合にも堂々と対応していました。

選手がスタートしてからフィニッシュしてくるまで2時間弱の空き時間には、一緒にボランティアとして参加していたさまざまな企業の方との交流もできました。お互いボランティアについての共通の思いを話し合い、現役社会人の方からは仕事や採用の話、企業が若い人に期待することなど、大学生としてたいへん有意義なお話を聞くことができました。このようにボランティア活動は、普段キャンパス内にいるだけで

は経験できないさまざまな立場の違う方との交流を通して、学生が成長する現場でもあります。

天候も回復した翌18日(日)の「エイジグループ」では、スタート前のエイドと、選手受付を担当しました。活動時間は4時間半と短かったのですが、選手はカテゴリー毎・年齢毎に順次受け付けてスタートに流れていくので、ボランティアもその間は休みなく約1,500名の選手対応を行う必要があり、集中力も必要な活動でもありました。

- 実施日/5月17日(土)、18日(日)
- 場所/横浜市中区山下公園周辺特設会場
- ボランティア学生数/17日2名、18日2名



★「2025 ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」レポートはこちらから。

2025 横浜八景島トライアスロンフェスティバル

地元の観光地で活動できる
スポーツイベント

「2025横浜八景島トライアスロンフェスティバル」は9月28日(日)、横浜・八景島シーパラダイスで開催されました。今年は一般ボランティアとして、計測チップの受け渡しに2名が参加、また救護ボランティアとして、医学部の学生団体「Front Line of Yokohama(FLY)」のメンバー5名が参加しました。朝は雨予報があったものの開始とともに日差しが戻って、28℃の夏日となりました。

一般ボランティアの2名はスイム会場の選手受付で、名前とエントリー番号を確認しながら番号のついた計測チップを手渡す活動を行いました。カテゴリーごとに受付時間が決められており、指定の時間になると多くの選手が並びます。900名近いエントリー選手に間違えることなく計



測チップを手渡すのは、簡単なようでとても気が遣う作業でしたが、他のボランティアの方とコミュニケーションをとりながらスムーズに行えました。

救護ボランティアはスイム競技で体調を崩す、けがを負うなどした選手に対し、救護所で従事する医師や看護師からの指示に従って助手として業務補助を行いました。スイムコースはスタートとフィニッシュの場所が近く、救護所付近から選

- 実施日/9月28日(日)
- 場所/横浜・八景島シーパラダイス、LINKAI 横浜金沢周辺
- ボランティア学生/一般2名、救護「Front Line of Yokohama(FLY)」5名



★「2025 横浜八景島トライアスロンフェスティバル」レポートはこちらから。



第9回アフリカ開発会議 (TICAD9)



熱気あふれる3日間！
アフリカからの来場者をおもてなし

8月20日(水)から22日(金)の3日間、横浜のパシフィコ横浜で「第9回アフリカ開発会議 (TICAD9)」(※以下 TICAD9 と表記)が開催されました。4回目の横浜開催となった今回は、アフリカ49か国の代表団を含む国内外の関係者が横浜に集結し、「革新的な課題解決の共創、アフリカと共に」をテーマに議論が交わされ、最終日には「TICAD9 横浜宣言」が採択されました。

パシフィコ横浜展示ホール B・C では、日本貿易振興機構 (ジェトロ) によるビジネス交流イベント「ジャパン・フェア」が開催され、横浜市をPRする「横浜ブース」にて、本学の学生延べ11名がボランティアとして活動しました。ホール内には来場者があふれ、ものすごい熱気に満ちていました。特に初日は開場とともに受付に来場者が殺到し手荷物検査等に時間がかかったようで、集合時間に間に合わない学生が出てしまったほどでした。

活動内容は「横浜ブース」への誘導・案内、チラシの配布、そしてブースで提供するコーヒー等

のサーブ。また出展企業に向けてはプレゼンテーション時のサポート、PR 映像の放映サポートなどをシフトに分かれて行いました。

活動内容が、おもてなし要素の高いものだったこともあり、学生ボランティアも多くのアフリカの方たちとコミュニケーションをとることができたようです。アフリ

カの文化や言語について盛り上がっている学生や、将来の夢とその実現についてアドバイスをもらっている学生、慣れないコーヒーのサーブを注意深く行っている学生もいました。また、ア



リカからの来場者は、大阪・関西万博と掛け持ちしている方も多く、大阪・関西万博に関する話題も多く取り上げられていたようです。

- 実施日 / 8月20日(水)～22日(金)
- 場所 / みなとみらい・パシフィコ横浜
- ボランティア学生 / 3日間延べ11名



★「第9回アフリカ開発会議 (TICAD9)」レポートはこちらから。

横浜マラソン2025



雨の中、フィニッシュしたランナーに労いの言葉を

「横浜マラソン2025」は28,770人のランナーが参加し、途切れなく降る霧雨に濡れながら、風光明媚な市内各所や首都高を巡るコースを走りました。気温も最高気温で16度という天候の中、レインコートが手放せない一日となりました。

「一般ボランティア」では、15名の学生がフィニッシュエリアで、参加賞として提供された袋を配布する活動に参加しました。完走したランナーは喜び、達成感、安堵感、疲労などさまざまな感情が混ざり合った状態でレーンに入ってきますが、そんなランナーと最も近くで接することができるのがフィニッシュエリアでの活動でした。



大勢のランナーに向けた途切れることのない対応の中で、学生たちからどこからともなく「袋はそのまま渡すのではなく、手持ちを出して開いて渡したほうが、次にもらう参加賞を入れやすくして選手はありがたいのでは？」という意見が出て、その後本学のレーンでは、袋を開いた状態にして渡すようにしました。ひと手間はかかりますが、これも現場ならではの工夫と選手への思いやりの気持ちの表れとして、とてもいい経験ができたと思います。

また本学からは毎年、「救護ボランティア(FR隊)」にも多くの医学部生が参加しています。2025年はボラ室から呼びかけた救護ボランティアのほかに、医学部の学生団体「Flont Line Yokohama (FLY)」のメンバーなど37名が参加しました。ランナーの急変に最初に気づいて初期の対応をするのが「First Responder」ですが、もし緊急事態が目の前で起こったときは、周りにいる医師や看護師の方と連携して初期救急に対応する勇気や、冷静な判断力も必要です。医学部生は卒業後医療の現場に出たときにきつと役立つ経験として、救護ボランティアに参加する学生が多いようです。



そして今年も、「応援団チアリーダー部 Seagulls」と「吹奏楽団『奏』」が、ファンラン(ファミリー・中学生・車いす)の応援パフォーマンスをアンパンマン、バイキンマン、ドキンちゃんと一緒に行いました。また「ピアノ会」は首都高杉田入り口付近第11給水所でパフォーマンスを行いました。

- 実施日 / 10月26日(日)
- 場所 / パシフィコ横浜臨港パークフィニッシュエリア、山下ブロック第3・14救護所、南部市場第8救護所、首都高島浜第9救護所、首都高磯子第10救護所、パシフィコ横浜、首都高杉田入り口付近第11給水所
- ボランティア学生 / 一般ボランティア15名、救護ボランティア37名、応援パフォーマンス「応援団チアリーダー部 Seagulls」「吹奏楽団『奏』」、給水パフォーマンス「ピアノ会」



★「横浜マラソン2025」レポートはこちらから。

「循環型『食』の協働プロジェクト」(食のサイクル活動)



ボランティア支援室では2021年度から2024年度まで、事前申請をした“生活が厳しい学生”を対象に「食の支援」を合計18回(他キャンパス開催3回を含む)開催してきました。しかし2025年度は、ここ数年の急激な物価高などの社会状況の変化などを鑑み、SDGs12「つくる責任・つかう責任」の解決を目的としたフードロス削減活動「YCUフードシェア」と名称を変え、全学生を対象に3回実施しました。

毎回、公益社団法人フードバンクかながわ(以下「フードバンクかながわ」と表記)等の企業様・団体様からご寄附いただいた賞味期限が近い、納品期限切れ、破損がある等のロス品を配布することは同じですが、「食の支援」との変更点として、受け取れる学生の条件をなくし、だれでも当日会場に来れば受け取れるようにして、多くの学生に食品ロスの削減に協力してもらいました。

全学生向けの、フードロス削減に貢献する活動「YCUフードシェア」

2025年度の「YCUフードシェア」は7月8日(火)、10月22日(水)、2026年1月21日(水)の全3回実施し、それぞれ291名、349名、389名の学生が受け取り、食品ロスの削減に協力してくれました。「食の支援」と違い、事前申し込みがないこともあってか、開始前から並ぶ学生は増えて、第3回では100名くらいの学生が開場前の受付に並ぶという状況でした。配布品は今までの「食の支援」のときから協働しているフードバンクかながわ、株式会社オーバースーズに、引き続き支援いただきました。

「YCUフードシェア」に変更したことでアンケートでも、「以前の食の支援の時は自分なんかを受け取っても平気かと少し躊躇っていたところが、つかう責任として捉え直せるようになりありがたい」「生活の支援ではなく、食品ロス削減という目的があることで、食品を受け取りやすく、私た



7月8日(火)、第1回「YCUフードシェア」



10月22日(水)、第2回「YCUフードシェア」



2026年1月21日(水)、第3回「YCUフードシェア」

ちもSDGsに貢献することができたという意識が生まれると思いました」という意見があり、この取組の成果は表れているといえるでしょう。また、第3回事後アンケートでは、94%の学生が「食品ロスやSDGs目標12「つくる責任・つかう責任」に対する関心が高まった/とても高まった」と回答してくれました。

■YCUフードシェア / 実施日・場所・配布人数

- 第1回/7月8日(火)市大交流プラザいちょうの館、291名に配布
- 第2回/10月22日(水)市大交流プラザいちょうの館、349名に配布
- 第3回/2026年1月21日(水)市大交流プラザいちょうの館、389名に配布

「YCUフードシェア」の“随時配布”

2025年度の「YCUフードシェア」は配布日時を決めて3回実施しましたが、ロス品は賞味期限の関係などで随時発生するもので、そういった急を要するロス品も適宜受け入れています。また食品に限らず日用品なども新商品の入れ替え等で大量の廃棄予定品があり、特にこういった大量のロス品が集まるフードバンクかながわからは、ロス品が発生した場合すぐに電話でご連絡があり、ボランティア支援室で受け入れ可能な日時を指定してYCUスクエアに搬入していただいています。これらは「YCUフードシェア」の一環として掲

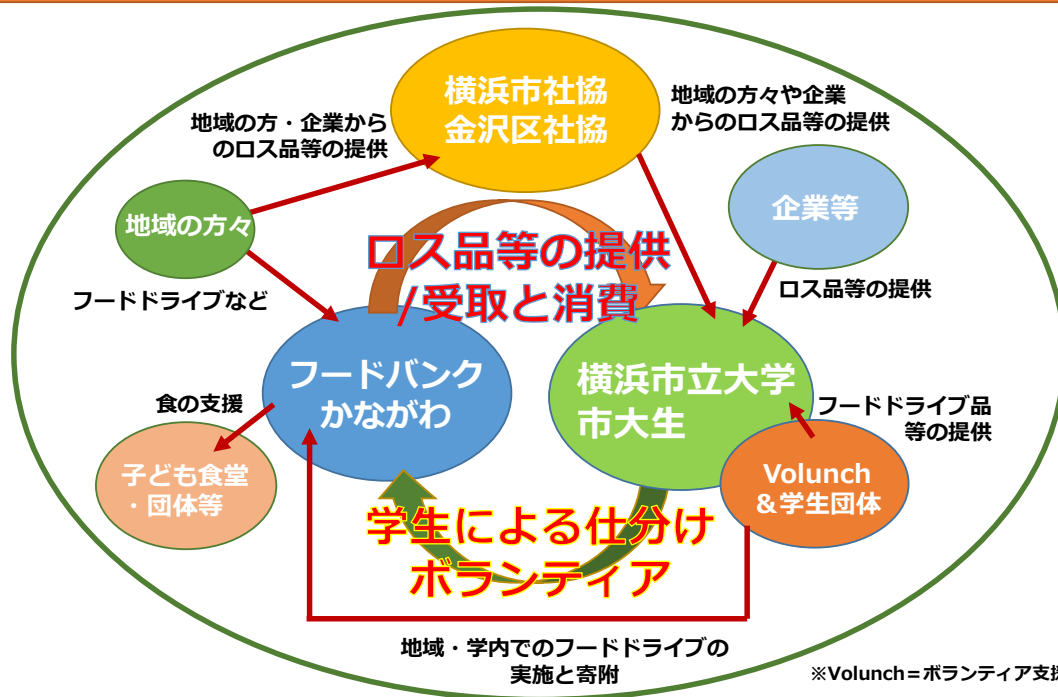


示板前に配架し、全学生向けに周知して一人当たりの配布数量を決めて配布しています。2025年度は17回実施しました。

■YCUフードシェア随時配布

- 各種アイスクリーム/2,694個、各種中華まん/1,460袋、
- 粉末栄養ドリンク/3,060袋、粉末ココア/1,512袋、
- 各種マスク/2,750箱、水分補給飲料等/2,616本、
- 災害用保存パン・ビスケット等/1,220個、
- ペットボトルお茶等/798本、オーツミルク/780本、
- 油拭きシート/480個

「廃棄」「コスト」「フードロス」などの削減に貢献し、SDGs目標12の解決をめざす
YCUフードシェア活動（R6年度までの「食の支援」）



『循環型「食」の協働プロジェクト（食のサイクル活動）』

「フードシェア 前日準備ボランティア」は食品ロスを身近で学ぶ良い機会

「YCUフードシェア」の際は、昨年度までの「食の支援」の時と同様に、前日の準備ボランティアを募集しています（ボランティア証明書対象活動）。毎回4～5名、多い時は10名ほどの学生が参加しますが、継続的に参加してくれる常連の多い活動です。搬入時のカゴ車運搬から始まり、種類ごとの仕分け、配布品を出して配架、ダンボールの片づけ、「1人〇個」等の表示貼りなど力仕事も多いのですが、その分様々な食品のことを知れる活動です。また作業しながら学年を超えたおしゃべりにも花が咲き、皆楽しみながら活動してくれています。最後はボラ室からの活動のお礼として、好きな品を持ち帰ってもらっています。



「フードシェア前日準備ボランティア」は常連の多い活動。

生活が厳しい学生向けの「ロフト生活雑貨配布」

2025年度は社会福祉法人横浜市社会福祉協議会にお声がけいただき、同協議会が協定を締結している株式会社ロフトから生活が厳しい大学生向けに、バッグ・スーツケースなどの日用品の寄贈がありました。こちらは「配布日時で本学の在籍生であること」「保護者の支援が十分に受けられない状態（自宅外通学やひとり親世帯など）であること（自宅通学でも可）」「物価高のため生活費を切り詰めている状態であること」の3つの条件に当てはまる学生に事前登録（558名）してもらったうえで、日時を決めて先着順で配布



留学や部活などで必須のスーツケースやバック類を配布。

しました。

一時的に会場前には200名以上が並びましたが、整理券を配布するなどの対応をして、12時からの45分間ですべてなくなって終了となりました。最終的にはスーツケース、リュック、トートバッグ、ワイヤレスイヤホン、水筒など寄贈いただいた51点が、必要とする学生の手にわたりました。

- 生活が厳しい学生向けの「ロフト生活雑貨配布」/ 実施日・場所・配布人数
- 5月26日(月) YCUスクエアS27(Volounge)、51名に配布



★「循環型「食」の協働プロジェクト（食のサイクル活動）」
 詳細はこちらから

YCU×SEEDブリスター回収プロジェクト



2022年度から活動を開始したClover(シーラバー<Sea+Lover>)は、SDGs14「海の豊かさを守ろう」の実現を目指して、多様な視点から環境問題に向き合っています。

連携している株式会社シードの「BLUE SEED PROJECT(※1)」では、金沢八景、福浦、みなとみらいの3キャンパスで、コンタクトケース(ブリスター)の定期的な回収を行っています。ブリスターを買い取ってもらった収益は、海洋ごみ問題に取り組む団体に全額寄附されます。2025年度は、合計31.795kgのブリスターを回収しました。

(※1)「BLUE SEED PROJECT」<https://www.seed.co.jp/blueseed/>



する時期に入っています。どのような形でステップアップしていくのか、今後もその活動とともに目が離せません。

■YCU×SEEDブリスター回収プロジェクト
「学生団体Clover」参加メンバー/20名



★Cloverの「X」は
こちらから

浜大祭では海をイメージしたサイダーを飲んでいただきながら、活動を紹介

昨年、一昨年と参加した浜大祭に2025年度も出店しました。「環境負荷が少ないのは?」「日常選択クイズ」や人気の環境まんげ鏡など、プラスチックごみ問題や環境について楽しく学びながら、Cloverの活動を知ってもらう展示のほか、

2025年度は少し趣向を変えて、海をイメージしたサイダーの販売を行いました。史上初めての飲食販売ということで、いろいろ試行錯誤しながらの準備でしたが、メンバーで協力しながら多くの来場者に対応しました。

またボランティア支援室では、「ボランティア・スタートアップ補助金」によりCloverの活動を支援開始してから3年目になりました。2025年度で補助金の交付が終了するので、2026年度から団体として自走していくために今後の活動を検討

ボランティア支援室主催プログラム Program Sponsored by Volunteer Support Office

「3Stepボランティア実践講座」



ボランティア支援室が、社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉講義会(及び金沢区内の10の地域ケアプラザ)、関東学院大学と協働して行っている「3Stepボランティア実践講座」は、大学生が福祉分野のボランティア活動に参加するための入り口として、2016年度から実施しています(関東学院大学は2016年度、及び2021年度から参加)。

2025年度は2023年、2024年同様にStep1「基礎講座」をオンラインで、Step2「ボランティア体験」は学生自ら30か所のプログラムより選んで参加してもらい、Step3「振り返り」は本学にて対面で実施しました。

Step2では地域のイベントも体験先として選択肢に!

福祉関係のボランティア希望者に向けた実践的な講座として、毎年何度も打ち合わせを重ねながらブラッシュアップしてきた「3Stepボランティア実践講座」。昨年度から懸案となっていたStep1の開催を対面にするか、オンラインで実施するかという大きな課題は、やはり対面実施することが難しく、2025年度もオンラインでの実施となりました。福祉という対人対応を重視する

活動にとって、オンラインで実施するグループワークの難しさは関わる職員皆が実感していたこともあり、内容を大幅に変更してグループワークの時間をなくし、その代わりにコーディネーターによるケアプラザの施設やプログラムの紹介に時間をとりました。学生が緊張することなく楽しく視聴できる内容を各ケアプラザで考えて、丁寧に説明していただくことができました。

「Step2」では、学生は30のプログラムから参加希望を出し、一人あたり1~8のプログラムで体験活動を行いました。2025年は地域ケアプラザのほかにも地域のコミュニティカフェや地区センターで行われる地域の子どもイベントなども体験先として取り入れてもらえたので、学生の興味・関心も広がり、より多彩な体験ができたのではないのでしょうか?

「Step3」では、夏休みのおわりに本学に集まって、グループワークを中心とした振り返りを行いました。実際に体験をした者同士が集まると会話にも花が咲きます。最後は学生、コーディネーター、職員全員が輪になって、実践講座全般や福



対面で実施されたStep3のグループワークの様子。

祉系のボランティア、自身のキャリアなどについてざっくばらんに話し、交流の時間を持つことができました。終了後もコーディネーターとの話が尽きない学生もあり、講座後の活動にもつながったようです。

■実施日/

- Step1/6月25日(水)、横浜市立大学7名、関東学院大学17名、@オンライン(Zoom)
- Step2/8月7日(木)~9月16日(火)、横浜市立大学延べ21名、関東学院大学延べ37名、@横浜市金沢区内各地域ケアプラザ
- Step3/9月17日(水)、横浜市立大学5名、関東学院大学7名、@横浜市立大学YCUスクエア4階 Y103

対面で実施されたStep3の交流会の様子。

ボランティア支援室では、地域貢献活動に取り組むさまざまな学生団体を支援しています。

■キャンパスタウン金沢サポート補助金事業

横浜市立大学と関東学院大学、金沢区が連携した“大学の活力を生かしたまちづくり「キャンパスタウン金沢」”の本学事務局を、ボランティア支援室が担っています。2025年度は以下の3団体が採択されました。

◎いのちの授業グループ いのちの授業

「いのちの授業グループ」では、看護学科の学生が中心となって子どもたちに「生命の誕生や性に関する正しい知識」「自他を尊重する態度」を伝えるため、市内の小学校で訪問授業を行っています。講義では命の始まりや身体の仕組み、赤ちゃんの誕生と成長、性の権利などを教え、体験型プログラムでは赤ちゃんのおむつ交換・抱っこ体験、妊婦体験、聴診器体験を行っています。授業づくりから当日の進行まで、学生自身が企画・運営し、子どもたちとの関わりを通して、学生自身も学びを深めています。



★いのちの授業グループのInstagramはこちらから。



◎角田隆一ゼミナール写真部 大学生による「金沢八景まち歩きカード」ワークショップ



「横浜市立大学 現代社会論ゼミ（角田隆一ゼミ）」の教員・大学生・卒業生の有志メンバーが、社会学と写真表現を連関させた「フォト・プロジェクト」に取り組んでいます。2025年度は大学生が主体となり、写真を活用した「金沢八景まち歩きカード」を30作品制作しました。この写真カードは、若者の視点から見出されたまちの新しい魅力を具現化したものです。11月と2月には、横浜市立大学と関東学院大学の大学生・卒業生が、カードを片手にまちを歩くワークショップを実施しました。大学生・卒業生が「金沢八景」の新しいイメージに触れ、地域への関心を育む機会を生み出しました。



★角田ゼミのInstagramはこちらから。

◎三輪研究室 みんなでまち保育プロジェクト

「三輪研究室」では「コミュニティ・居場所」に着目し、これらをつくることでまちを変えていく「市民まちづくり」について学習しています。2025年度は、「子育て支援のアウトリーチ『ばあくるin 並木』チーム」「小中高生の居場所づくり『あすなみ』チーム」「胎児期からのまち保育チーム」「インクルーシブ視点のまち保育チーム」の4つのグループで活動しました。まちにある資源を活用し出会いをつなげて関係性を広げていくことや、身近な地域社会子どもが育っていくという「まち保育」の考え方の下、子どもたちと地域をつなげることを目標として活動しました。



★三輪研究室のInstagramはこちらから。



ボランティア支援室では、地域貢献活動に取り組むさまざまな学生団体を支援しています。

◎医学部YDC (Yokohama dream catchers) 横浜市立南高等学校附属中学校での訪問授業

医学部学生団体「医学部YDC (Yokohama Dream Catchers)」は、2010年から横浜市内の小中学校で正しい医療知識を伝える訪問授業を行っています。2025年度は3校での授業に加え、金沢消防署との医療体験教室やエクステンション講座、高齢者向け講座など活動の幅を広げました。約80名が所属していますが、医学部特有の忙しさから日程調整が難しい中でも活動を継続しており、2025年3月には厚生労働大臣賞(最優秀賞)を受賞しました。

12月22日(月)には横浜市立南高校附属中学校で2年生4クラスを対象に授業を実施。医学部を志した理由や学びを伝えるキャリア教育と、問診

のロールプレイを通じて医師の仕事を経験する学習を行いました。生徒たちは興味深く耳を傾け、授業後には医学部を目指したいという生徒からの質問もありました。体験を重視したプログラムにより、医療への理解を深める機会となったようです。



★医学部YDCのXはこちらから。

- 実施日/12月22日(月)
- 場所・対象/横浜市立南高校附属中学校 2年生4クラス(各クラス40名)
- 医学部YDC (Yokohama Dream Catchers) 参加メンバー/11名

◎いのちの授業グループ 港南台第二小学校での訪問授業

「いのちの授業グループ」では2025年度、前年度までの2校に加え、新たに2校活動先を開拓して、9月に2校、年明け2月に2校で訪問授業を実施しました。

港南台第2小学校の5年生2クラスに向けた授業ではメンバー11名が参加し、1～2限に1組(28名)、3～4限に2組(27名)を対象に命の大切さ



を伝えました。前半は座学で、月齢ごとの赤ちゃん人形を使って胎児を確認し、担任の先生へのインタビューを通してリアルな出産の様子を知ってもらいました。中でもメンバーが大切にしている性教育の部分ではプライベートゾーンの概念を取り上げ、自分の体を大切にすることや他者の性を尊重する行動の重要性について話しました。後半はおむつ替えなど体験の時間をとったあと再び教室に集まって、赤ちゃんが生まれる確率の話から自分はもちろん、お友だちや周りの人の命の大切さを伝えて終了しました。

児童からは「妊婦さんがどれだけ大変かわかったので、今度から席を譲ってあげたい」「自分もお友達も、奇跡的に生まれてきた命を大切にしたい」といった感想が聞かれました。

- 実施日/2026年2月25日(水)
- 場所・対象/港南台第2小学校5年生2クラス(28名、27名)
- いのちの授業グループ参加メンバー/11名

ボランティア支援室学生スタッフ「Volunch」とは

★VolunchSNSはこちら



Volunch [X]



Volunch [Instagram]

「ボランティアの楽しさを発信し「ボランティア支援室と市大生」「市大生と地域」をつなげる」「自らもボランティアに参加することで、経験値をあげる」のふたつを目標に活動している学生団体です。

2025年度は、3回目(3年目)の参加となる夏休みの「寺子屋塾 西大道」と、同じく西大道町内会主催の「餅つき大会」のほか、グループ活動では「食の支援・資源リサイクルグループ」「国際交流・地域交流グループ」「子ども食堂グループ」の3つに分かれて各グループが「ボラツアー」を実施しました。

留学生も参加して、グローバルな「寺子屋塾」に！

西大道町内会主催の交流プログラム「寺子屋塾 西大道」が、8月6日(水)から8日(金)の3日間開催され、ボランティア支援室学生スタッフ「Volunch」(以後「Volunch」と表記)延べ20名が参加しました。小学1～6年生の児童14名とともに、学習支援や交流活動など、今年も温かな雰囲気の中で実施されました。

午前中は、子どもたちが持参した夏休みの宿題やドリルに取り組み、大学生がグループごとに付き添って質問に答えたり、丸付けを行ったりして学習をサポートしました。理科の調べ学習ではスマートフォンで画像検索をしたり、AI ツールを活用したりするなど、今どきの学び方も見られました。

2日目にはアメリカからの交換留学生も参加し、英語を交えたコミュニケーションで活動が一段と活気づきました。子どもたちも身振り手振りを交えながら英語で挑戦し、寺子屋塾として初めての国際交流の機会となりました。



昼食は町内会の方々による手づくりで、この日の唐揚げと炊き込みご飯は、おかわり続出の大人気。休憩時には体育室で鬼ごっこが始ま



■実施日/8月6日(水)～8月8日(金)
■場所/横浜市金沢区西大道町内会館
■Volunch参加メンバー/8月6日(水)5名、7日(木)8名、8日(金)7名、延べ20名

り、大学生も誘われて一緒に走って汗だくに！子どもたちと学生、地域の皆さんが交流を深める笑顔あふれる3日間となりました。

西大道町内会お餅つき

夏休みに寺子屋塾で交流した西大道地区主催のお餅つきにお声がけいただき、Volunchのメンバー4名が、住民の方々に配るためのお餅にあんこやきなこをのせるお手伝いをしてきました。公園でお餅をついた後1時間ほどかけてお餅を丸め、約200食分ができました。以下、参加メンバーの感想です。

◆町内会の会長さんは、「子どもたちの参加率が去年より低かった。若者の目線から、イベントに来てもらうための工夫などあれば今後教えてほしい」とおっしゃっていて、今後もボランティアとして参加しつつ大学生の目線からイベントを盛り上げるアイデアなど考えていけたら良いと思いました。(2年・F)

◆若者層の地域活動の参加率が低下していることが課題となっている中、ボランティアとして参加することはもちろんのこと、地域活動に興味を持っている学生が活動に参加できるような機会を提供し、地域との懸け橋となることで、次の世代に引き継いでいくことも大切だと思います。(2年・H)

◆町内会という小さな範囲のイベントに参加することで、より地域に密着した活動ができてよかったし、私自身も楽しむことが出来ました。今回は準備側の仕事がメインで住民の方々と関わる時間が少なかったけれど、その中でも自分から積極的に声をかけるなどもっと交流出来たらよかったと思いました。(1年・S)

◆最近では少なくなってきている町内会の深い交流が感じられてとても感動しました。これからはイベント当日だけではなく計画の段階からサ



参加者に配るお餅を準備中！

ポートできるとより良いのではないかなと思いました。(1年・F)

■実施日/2026年2月15日(日)
■場所/西大道共立会館(西大道町内会)、伊賀山公園
■Volunch参加メンバー/4名

【ボラツアーとは】

ボラツアーとは、ボランティアに初めて参加する学生の不安を少しでも減らすために、ボランティア支援室学生スタッフ「Volunch」と一緒にボランティアに参加してもらうプログラムです。事前・事後の交流会を実施して、事前の準備と振り返りといった一連のサポートを行うことで、ボランティア経験の少ない学生も安心してボランティアに取り組めるようVolunchがサポートします。

【食の支援・資源リサイクルグループ】

野島海浜清掃ボラツアー
～私たちと一緒に海浜清掃をして
海の豊かさを守りませんか？～

Volunch 食の支援・資源リサイクルグループでは、本学同窓会組織「浜大会」が定期的に行っている野島公園での海岸清掃活動をボラツアーとして実施することを決め、後期開始とともに浜大会スタッフとの打ち合わせを重ねました。チラシや申込フォームなどを作成し、当日のプログラムに含まれていた「海をつくる会」事務局長・坂本昭夫氏による環境セミナーの内容も共有しながら準備を進めました。

当日はメンバー3名と学生ボランティア2名が

参加し、野島海岸で約40分のゴミ拾いと分別作業を行いました。海岸には荒天の影響で大量の漂着ごみがあり、分別は時間内に終わらないほど！その後、野島青少年研修センターに移動し、坂本氏による出張授業を受講して解散となりました。

◆Volunchの感想

横浜市唯一の自然海岸である野島海岸は、潮の満ち引きが強いため、様々なゴミが流れ着く場所だそうです。アイスのゴミやクーラーボックスなど、海辺のパーベキュー場から流れ着いたと思われるゴミやスーパーで見られるプラスチックトレーを細かい状態で発見しました。野島海岸に落ちているゴミは、ボランティアさんによってしか回収されません。つまり誰かが拾わなければ、どんなに廃棄物を減らしても環境問題は解決さ



れません。この活動をより多くの人に知ってもらい、実施されることを強く願っています。

- 実施日/10月18日(土)
- 場所/野島海岸
- 事前交流会/10月16日(木)@オンライン、事後交流会/10月20日(月)対面
- 参加者/Volunch食の支援・資源リサイクルグループメンバー4名、ボラツアー参加学生2名

【国際交流・地域交流グループ】

金沢シーサイドウォーク
～Hello!～はじめてのかなざわ～

今回のボラツアーでは、国際交流・地域交流グループが年間を通してボランティア活動をしている金沢国際交流ラウンジからの紹介で、横濱金沢シティガイド協会(以下「シティガイド協会」とする)にご協力いただき、留学生や地域の外国人と日本人向けにプログラムを作りました。11月からは週1回のオンラインミーティングを重ね、コースや交流会などの準備を進めました。

当日はあいにくの雪模様でしたが、シティガイド協会の方の説明のあと、グループごとに順次金沢八景駅を出発。途中、参加者の小学生が雪だる



まを作ったりしながら野島公園～展望台～海の公園～西柴地域ケアプラザと、休憩を含め2時間ほど歩き、金沢区の景色を楽しみました。西柴地域ケアプラザでは紙飛行機大会、じゃんけん列車、猛獣狩り、折り紙などのレクリエーションを楽しみ、参加者とシティガイド協会の方々、Volunchメンバーの仲も深まりました。

◆Volunchの感想

雪が降っていたため解説が聞きとりづらく、景色もあまり良く見えなかったのが残念でし

た。レクリエーションではインドネシアやフィリピンのじゃんけんを教えてもらい、紙飛行機大会では互いに作り方を教え合うなど、あちこちで自発的な交流があったのがよかったです。

散歩パートでは、体調不良で離脱する人こそはいなかったものの、歩きながら寒がっている人は多かったです。レクリエーションでは、Volunch4人が企画した遊びで、参加者同士の交流を促進できたのが良かったです。結果的に体調不良者や負傷者が出ず、トラブルもなく良かったです。

- 実施日/2026年2月8日(日)
- 場所/金沢八景～野島公園～展望台～海の公園～西柴地域ケアプラザ
- 事前交流会/2026年2月1日(日)@オンライン、事後交流会/2月8日(日)対面
- 参加者/Volunch国際交流・地域交流グループメンバー4名、ボラツアー参加学生&一般参加者14名

【子ども食堂グループ】

～子ども食堂で子どもが
安心できる居場所づくりを！～

子ども食堂グループでは、金沢区で実施されている「金沢子ども食堂すくすく」に、ボラツアーとして参加してきました。すくすくでは、食事の提供のほか、子どもたちの笑顔があふれる場所を目指して交流・体験・情報交換ができるコミュニティを目指しています。

この日は缶バッジ作りのワークショップから始まりました。子どもも大人も夢中になってい



てそれぞれ個性あふれる缶バッジを完成させてとても活気に溢れていました。そしてこの日の食堂のメニューは手作りカレー！おかわりしている方もいて、お腹はもちろん、笑顔もいっぱいでした。

◆Volunchの感想

◎初めて訪問する子ども食堂さんでしたが、素敵な経験ができました。食料配布という経済的な支援からワークショップといった子どもたちに楽しんでもらう精神的なものまで、本当に子ど

もたちのことを思って活動をされているところだと実感しました。また参加させて頂きたいです。(2年・F)

◎子ども食堂ボランティアは特に自分が楽しんで終わり、ではいけない、このような場所がある意味やどこで誰がどれくらい仕事をしてくださっているのかなどの実態を知ることが大切だと思います。そのためには単発ではなくなるべく継続して参加することも必要だと思います。(1年・F)

- 実施日/2026年2月22日(日)
- 場所/いきいきセンター金沢
- 事前交流会/2026年2月18日(水)、事後交流会/2月22日(日)
- 参加者/Volunch子ども食堂グループ3名、ボラツアー参加学生3名

2025年度のボランティア支援実績

◆学生のボランティア登録数・派遣数・ボランティア依頼数実績

2026年3月15日現在

年 度	新規登録学生数	派遣学生数	ボランティア依頼数
2015年度計	164名	349名	181件
2016年度計	259名	235名	140件
2017年度計	327名	443名	287件
2018年度計	363名	490名	271件
2019年度計	460名	572名	238件
2020年度計	223名	154名	98件
2021年度計	397名	323名	141件
2022年度計	579名	924名	186件
2023年度計	462名	791名	195件
2024年度計	377名	706名	187件
2025年度計	374名	715名	194件
累 計	3,985名	5,702名	2,118件

※ボランティア支援室が開設した2015年1月15日～3月分は2015年度計に計上

※2015年度～2024年度卒業生2476名含む

◆2025年度 学生のボランティア参加実績(抜粋)

カテゴリー	活動名	依頼	形態	活動日	参加学生数
1. まちづくり・イベント支援	上大岡ココカラ「上大岡地域活性化企画運営大学生メンバー」	上大岡ココカラ	通年		5名
1. まちづくり・イベント支援	なんでもおはなし会～ぼかぼかとく～	横浜市立大学「浜大祭実行委員会」	単発	11月1日～2日	17名
1. まちづくり・イベント支援	地域食堂「みんなのレストラン」	社会福祉法人横浜市金沢区社会福祉協議会	単発	10月26日、11月16日	4名
2-1. 学習支援	ひとり親世帯の高校生対象「高等教育進学に向けた英語教室」	社会福祉法人横浜市社会福祉協議会	通年		2名
2-1. 学習支援	保土ヶ谷区寄り添い型学習支援「はばたき教室・つばさの会」	NPO 法人リロード	通年		3名
2-1. 学習支援	「外国にルーツがある子ども」たちの学習支援	わたぼうし教室横浜	通年		4名
2-2. 学習支援以外の子ども・青少年支援	逗子子ども食堂ボランティア	かながわ学生ボランティア連合	単発	4月12日	4名
2-2. 学習支援以外の子ども・青少年支援	こども向けおしごと体験イベントのボランティア	一般社団法人夢らくぎプロジェクト	単発	5月3日～6日	8名
2-2. 学習支援以外の子ども・青少年支援	第13回親子で楽しむ科学実験(エクステンション講座)	横浜市立大学「地域貢献センター」	単発	8月8日～10日	18名
2-2. 学習支援以外の子ども・青少年支援	こどもの国「なつまつり」スタッフボランティア	社会福祉法人こどもの国協会	単発	8月31日	4名
3. 障害児・者支援	第50回パーキンソン病友の会神奈川県支部定時総会・医療講演会手伝い	全国パーキンソン病友の会神奈川県支部	単発	6月22日	8名
3. 障害児・者支援	第16回レインボーフェスタ☆みなみボランティア	横浜市立中村特別支援学校	単発	9月20日	14名
4. 高齢者支援と健康に関する活動	楽しく交流・気軽にボランティア～SAKAEスマホサポーター～	栄区高齢・障害支援課	単発	8月25日、9月9日、11日、20日 2月14日、3月12日	4名
4. 高齢者支援と健康に関する活動	2025 ふるさと港北ふれあいまつり	港北区福祉保健課	単発	11月8日	3名
5. 自然・環境保全活動	みどりなひと「学生ライタープロジェクト」	認定NPO法人森ノオト	通年	9月～2月	2名
5. 自然・環境保全活動	ワールドライオンズ奉仕DAY～海の公園 清掃活動～	ライオンズクラブ国際協会330-8地区(横浜おとろコスモポリタン)	単発	10月5日	4名
5. 自然・環境保全活動	PIG FES 2025(第216回海さくらゴミ拾い)	NPO 法人海さくら	単発	10月18日	5名
7. 文化・芸術・スポーツに関する活動	HYROX YOKOHAMA(フィットネスレース)ボランティア	HYROX JAPAN	単発	8月9日	10名
7. 文化・芸術・スポーツに関する活動	第4回横浜金沢朗読公演会サポーター	横浜金沢朗読公演会実行委員会	単発	6月21日	2名
7. 文化・芸術・スポーツに関する活動	横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)2025 ボランティア	特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター	単発	11月28日～12月14日	2名
7. 文化・芸術・スポーツに関する活動	第20回湘南国際マラソン救護ボランティア	株式会社ランナース・ウェルネス「湘南国際マラソン事務局」	単発	12月7日	12名
7. 文化・芸術・スポーツに関する活動	金沢八景権現山公園「権現山の茶会」	公益財団法人横浜市緑の協会「金沢八景権現山公園」	単発	5月11日	9名
8. 国際交流・多文化共生に関する活動	あーすフェスタかながわ2025 企画委員	神奈川県国際企画グループ「あーすフェスタかながわ実行委員会事務局」	通年		6名
8. 国際交流・多文化共生に関する活動	「ブルガリアンローズフェスティバル町2025」通訳ボランティア	一般社団法人ブルガリアンローズ文化協会	単発	5月10日、11日	3名
8. 国際交流・多文化共生に関する活動	「ベトナムフェスタ in 神奈川2025」ボランティアスタッフ	ベトナムフェスタ in 神奈川2025 実行委員会	単発	9月13日、14日	8名
8. 国際交流・多文化共生に関する活動	第14回アジア・スマートシティ会議ボランティア	横浜市国際局	単発	11月25日、26日	7名

横浜市立大学 ボランティア支援室

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
YCU スクエア 1階カウンター&2階 S27「Volounge」
Tel : 045-787-2444 Fax:045-787-2093
Mail : volunteer@yokohama-cu.ac.jp



ボランティア支援室 HP



ボランティア支援室 X (旧 Twitter)



ボランティア支援室 Instagram